

国語 第5学年 和語・漢語・外来語 検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：和語・漢語・外来語の特徴と語感の違いを確かめ、相手や目的に合わせて語句を選ぶ。表記だけで由来が決まるとは考えない。B(1)オの学習として、同じ内容の言い方の比較と、相手を決めて書き換えた案内文。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、読む相手と目的を考え、語句の選び方を確かめて文章を直しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)オの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：同じ内容の言い方の比較と、相手を決めて書き換えた案内文を残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)オに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：つまり児童にはどんな支援をするか。

返し：漢字ならすべて漢語、片仮名ならすべて外来語と決める、外来語を使うほどよい文になると思う。これに對して、独自の案内文で「始める・開始する・スタートする」を比べる。辞書で語の由来を確かめ、低学年に知らせる場合と公式な案内の場合の違いを考える。〔知識及び技能〕(3)ウとB(1)オを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「相手に知らせたいことに合うのは、どの言い方ですか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)オに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：同じ内容の言い方の比較と、相手を決めて書き換えた案内文は紙に記録できる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)オの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)オで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：この教材で、誤りやすい点をどう確かめるか。

返し：漢字ならすべて漢語、片仮名ならすべて外来語と決める、外来語を使うほどよい文になると思う。独自の案内文で「始める・開始する・スタートする」を比べる。辞書で語の由来を確かめ、低学年に知らせる場合と公式な案内の場合の違いを考える。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「相手に知らせたいことに合うのは、どの言い方ですか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)オに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

